

日本における製薬企業TOP10社の 売上推移予測（2025-2030年）



概要と分析方法

調査対象

- 日本における内資系および外資系製薬企業TOP10社
- 期間：2025年～2030年（5年間）
- 指標：年間売上高（兆円）および年平均成長率（CAGR）

分析方法

- 各社の現在の市場状況分析
- 開発パイプラインの評価
- 国内外の医薬品市場成長予測の考慮
- 製品特許期限切れの影響分析
- 新薬の市場導入スケジュール検討

データソース

- IQVIA市場データ
- 富士経済調査結果
- 各企業公表資料（2025年5月時点）
- 業界専門家インタビュー



※本予測は2025年5月時点のデータと業界動向に基づくものであり、将来の不確実な要因により変動する可能性があります。

内資系製薬企業TOP10の売上予測（2025-2030年）

全体傾向: 内資系TOP10社の合計売上は2025年の約12.3兆円から2030年には約14.0兆円に成長（年平均成長率約2.6%）

企業名	2025年 予測(兆円)	2030年 予測(兆円)	増加額 (兆円)	年平均 成長率
武田薬品工業	4.30	4.70	+0.40	1.8%
大塚HD	2.10	2.40	+0.30	2.7%
アステラス製薬	1.65	1.80	+0.15	1.8%
第一三共	1.75	2.30	+0.55	5.6%
中外製薬	1.07	1.20	+0.13	2.3%
エーザイ	0.75	0.85	+0.10	2.5%
小野薬品	0.45	0.49	+0.04	1.7%
協和キリン	0.48	0.55	+0.07	2.8%

● 5%以上（高成長）

● 3-5%（中高成長）

● 1-3%（緩やかな成長）

● 0-1%（低成長）

主な特徴

最高成長企業

塩野義製薬：11.7%成長率で、0.46兆円から0.8兆円へ拡大
新型コロナ関連製品と抗ウイルス薬分野の強みに起因

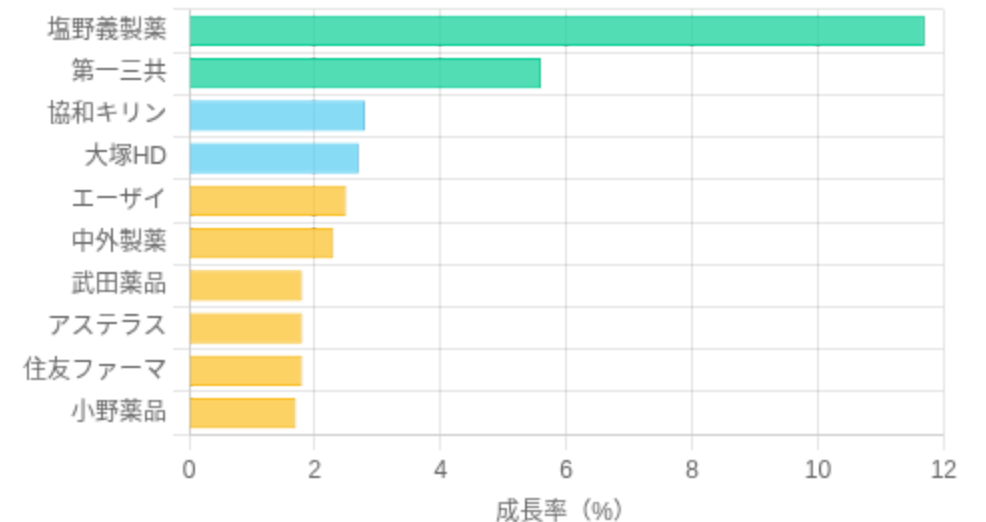
高成長企業

第一三共：5.6%成長率で、1.75兆円から2.3兆円へ拡大
ADC技術を活用したがん治療薬「エンハーツ」などの海外展開が牽引

最大規模企業

武田薬品工業：最大手として4.7兆円の売上規模を維持
成長率は業界平均を下回るものの、圧倒的な規模を保持

内資系製薬企業TOP10の年平均成長率比較（%）



外資系製薬企業TOP10の売上予測（2025-2030年）

全体傾向: 外資系TOP10社の合計売上は2025年の約2.4兆円から2030年には約3.0兆円に成長（年平均成長率約4.6%） — 内資系企業より高い成長率

企業名	2025年 予測(兆円)	2030年 予測(兆円)	増加額 (兆円)	年平均 成長率
アストラゼネカ	0.42	0.65	+0.23	9.1%
MSD	0.40	0.46	+0.06	2.8%
ノバルティスファーマ	0.27	0.31	+0.04	2.8%
ファイザー	0.22	0.25	+0.03	2.6%
サノフィ	0.21	0.23	+0.02	1.8%
ロシュ/中外	0.19	0.23	+0.04	3.9%
イーライリリー	0.20	0.26	+0.06	5.4%
グラクソ・スミスクライン	0.18	0.20	+0.02	2.1%

● 5%以上（高成長）

● 3-5%（中高成長）

● 1-3%（緩やかな成長）

● 0-1%（低成長）

主な特徴

最高成長企業

アストラゼネカ：9.1%成長率で、0.42兆円から0.65兆円へ拡大
がん治療や呼吸器疾患領域での新薬開発が成長牽引

高成長企業

アッヴィ：5.9%成長率で、自己免疫疾患治療領域での強みを活かす

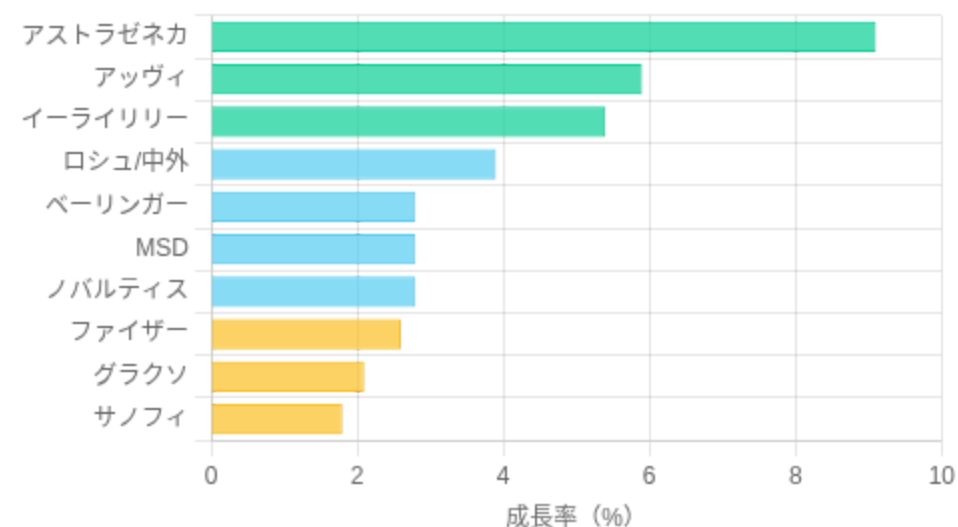
イーライリリー：5.4%成長率で、GLP-1受容体作動薬「マンジャロ」が牽引

規模の拡大

アストラゼネカ：外資系で最大規模（0.65兆円）となる見込み

MSDとの差が拡大する傾向

外資系製薬企業TOP10の年平均成長率比較（%）



内資系と外資系の比較分析（2025-2030年）

📊 市場規模の比較

内資系TOP10社（2030年） 約14.0兆円

外資系TOP10社（2030年） 約3.0兆円

内資系は外資系の**約4.7倍**の規模

📈 成長率の比較

内資系TOP10社 平均 2.6%

外資系TOP10社 平均 4.6%

最高成長企業： 塩野義製薬 11.7%

外資系最高： アストラゼネカ 9.1%

🔄 企業間競争の変化

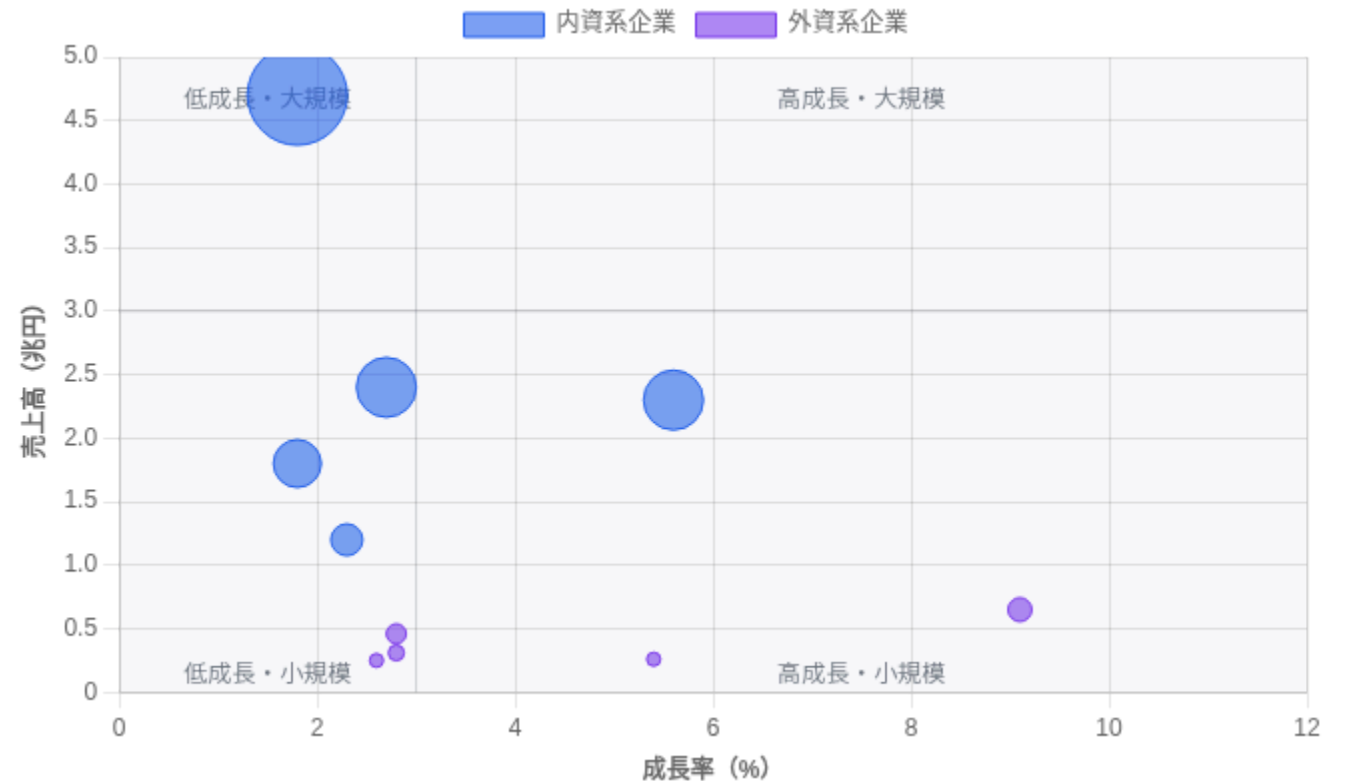
内資系動向：

第一三共（5.6%成長）が高い成長率により大塚HD（2.7%成長）に迫る可能性

外資系動向：

アストラゼネカ（9.1%成長）が他社との差を拡大し、市場シェアを高める傾向

売上規模と成長率の位置付け（2030年予測）



内資系企業の特徴

- 全体的に規模が大きい
- 成長率は平均的に低め
- 新薬開発力が高い一部企業が急成長
- 薬価制度改革の影響を受けやすい

外資系企業の特徴

- 規模は比較的小さいが成長率が高い
- スペシャルティ医薬品に強み
- グローバル展開の恩恵を受ける
- 特定疾患領域での専門性を活かす

※バブルサイズは2030年の予測売上高を表しています

成長要因と今後の課題

成長を牽引する主な要因



イノベーション創出能力

- 抗体医薬品やADC技術などの開発力
- 高付加価値製品ポートフォリオの構築
- バイオテクノロジー企業との協業・買収



グローバル市場での展開

- 海外売上比率の拡大（特に米国・欧州・中国市場）
- グローバル臨床試験の加速
- 海外提携・ライセンス戦略の強化



スペシャリティ医薬品への注力

- がん・免疫疾患・希少疾患領域への集中
- 個別化医療アプローチの拡大
- 高薬価・高付加価値製品の開発

今後の課題



薬価制度改革の影響

特に内資系企業は国内市場の薬価引き下げの影響が大きく、毎年の薬価改定に対応した経営戦略の再構築が必要



研究開発投資の効率化

研究開発費の増大に対するリターンの最適化、パイプラインの選択と集中、AI・デジタル技術の活用による開発コスト削減



グローバル競争力の強化

特に内資系企業は海外市場での競争力強化が課題、グローバル人材の確保・育成と組織体制の変革が必要



バイオシミラー・ジェネリック医薬品の台頭

特許切れによる市場浸食への対応、新薬開発との両立戦略、バイオシミラー市場への参入判断

市場予測の不確実性要因



薬価制度の変更

中間年改定などの制度変更による市場影響



新薬の開発成功率

パイプライン品の承認状況による予測の変動



経済・地政学的状況

為替変動やサプライチェーン変化の影響



予期せぬ健康危機

新たなパンデミックなどによる市場変動

将来展望

日本の製薬業界は、イノベーション創出と海外展開を通じて成長を実現する企業と、国内市場の構造変化に適応できない企業との二極化が進む見込み。持続的成長には、グローバル競争力の強化と研究開発の効率化が不可欠。